1）テーマ：「先輩から学ぶ実習」

2）カテゴリー：教育方法

3）学校概要：①学校名：京都中部総合医療センター看護専門学校

②所在地：京都府南丹市八木町南広瀬上野３番地１

③課程名：３年課程　１学年　40 名　就業年限　３年

【ねらい】

学生にとって臨床実習は緊張の連続であり「怖くて不安」という言葉をよく耳にする。特に基礎看護学実習は初めて見る病室、患者さんにスタッフという環境に学生の中には体調不良となる者もいる。このような緊張をできる限り取り除きスムーズに実習ができ多くの学びができることを目的とし１・２年生は３年生の実習見学を行っている。

３年生の見学を通して情報収集の方法、指導者への報告・連絡・相談方法、グループ内での連携方法、患者に応じた看護援助など様々な学びをしている。３年生は後輩に患者説明や援助の根拠などの説明をすることで知識を再確認し看護の理解を深めている。

１年生は基礎看護学の環境調整技術の授業と並行して見学を実施しており実際の病床環境を知ることで机上では学べない患者に応じた環境調整の必要性や安全・安楽で快適な環境をとらえる看護の視点を学ぶ。

２年生は看護過程の展開、看護計画に沿った援助方法、アセスメントされた報告など根拠のある看護方法を学ぶ。

毎回１・２年生は見学実習を楽しみにしており実習前の事前学習や技術練習に意欲的に取り組んでいる。

今後も１年後、２年後の成長した自己の姿がイメージできることで看護師になる目的意識が明確になり学習意欲の向上につながることを期待し実施していきたい。

●スケジュールと実施時

学年	実施時期
１年生	基礎看護学実習Ⅰ・前期　実施前　6月頃
	基礎看護学実習Ⅰ・後期　実施前　11 月頃
２年生	基礎看護学実習Ⅱ　実施前　6 月頃

報告を見学する様子



患者さんの説明を受ける様子



●便の状態や食事摂取量から水分摂取を促すなど看護を考え計画に組み入れていくことが必要。

●看護診断を意識した情報収集やわからないことは直ぐに調べたり質問することで根拠ある看護提供できる。

●グループ間や指導者さんと積極的にコミュニケーションを取ることで円滑な人間関係につながる。

●隙間時間に記録を整理しながら記述したり調べたりするなど事前準備が必要になる。

●指導に使うパンフレットを学生間で評価していた。客観的評価を受けることでよりわかりやすいものになる。

●実習は責任を持つこと、患者さんを第一に考えること、傾聴すること、連絡報告相談することが大切。

●薬は作用だけでなく副作用も調べることで観察点も増え報告時に根拠ある報告になる。

●緊急時以外は指導者さんの状況を見て報告する。自分の都合を優先しない。　学生の学びより引用